

## (2) 将来推計人口

各市町の「人口ビジョン」による本圏域の人口及び年齢3区分別人口は、以下のとおりです。

## 【人口】（単位：人）

		H22実績 (2010)	H27速報 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H52 (2040)
南 魚 沼 市	国勢調査	61,624	58,588			
	社人研推計			57,550	55,335	48,021
	日本創生会議推計			57,249	54,660	45,819
	人口ビジョン推計			57,925	56,239	50,512
魚 沼 市	国勢調査	40,361	37,370			
	社人研推計			35,200	32,700	25,600
	日本創生会議推計			34,600	31,600	22,600
	人口ビジョン推計			36,900	35,500	31,300
湯 沢 町	国勢調査	8,396	8,047			
	社人研推計			7,529	7,038	5,466
	日本創生会議推計			7,482	6,947	5,215
	人口ビジョン推計			7,870	7,570	6,650
計	国勢調査	110,381	104,005			
	社人研推計			100,279	95,073	79,087
	日本創生会議推計			99,331	93,207	73,634
	人口ビジョン推計			102,695	99,309	88,462

※社人研は、国立社会保障・人口問題研究所の略称

資料：各市町人口ビジョン

# 【変更案】

## (2) 将来推計人口

各市町の「人口ビジョン」による本圏域の人口及び年齢3区分別人口は、以下のとおりです。

【人口】（単位：人）

		H22実績 (2010)	H27実績 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H52 (2040)
南 魚 沼 市	国勢調査	61,624	<u>58,568</u>			
	<u>H25社人研推計</u> <u>(H25.3発表)</u>			57,550	55,335	48,021
	<u>H30社人研推計</u> <u>(H30.3発表)</u>			<u>55,596</u>	<u>52,510</u>	<u>42,850</u>
	人口ビジョン推計			57,925	56,239	50,512
魚 沼 市	国勢調査	40,361	<u>37,352</u>			
	<u>H25社人研推計</u> <u>(H25.3発表)</u>			35,200	32,700	25,600
	<u>H30社人研推計</u> <u>(H30.3発表)</u>			<u>34,485</u>	<u>31,668</u>	<u>23,563</u>
	人口ビジョン推計			36,900	35,500	31,300
湯 沢 町	国勢調査	8,396	<u>8,046</u>			
	<u>H25社人研推計</u> <u>(H25.3発表)</u>			7,529	7,038	5,466
	<u>H30社人研推計</u> <u>(H30.3発表)</u>			<u>7,642</u>	<u>7,240</u>	<u>5,877</u>
	人口ビジョン推計			7,870	7,570	6,650
計	国勢調査	110,381	<u>103,966</u>			
	<u>H25社人研推計</u> <u>(H25.3発表)</u>			100,279	95,073	79,087
	<u>H30社人研推計</u> <u>(H30.3発表)</u>			<u>97,723</u>	<u>91,418</u>	<u>72,290</u>
	人口ビジョン推計			102,695	99,309	88,462

※社人研は、国立社会保障・人口問題研究所の略称

資料：各市町人口ビジョン

【年齢3区分別人口】（単位：人）

		H17実績 (2005)	H22実績 (2010)	H27速報 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H52 (2040)
南 魚 沼 市	年少人口 (0～14)	9,238	8,349		6,963	6,816	6,598
	生産年齢 人口(15～ 64)	38,386	37,199		31,875	29,847	25,625
	老年人口 (65以上)	15,705	16,076		19,087	19,575	18,288
	計	63,329	61,624	58,588	57,925	56,238	50,511
魚 沼 市	年少人口 (0～14)	6,083	5,202		4,100	3,900	3,900
	生産年齢 人口(15～ 64)	25,580	23,184		19,100	17,500	14,600
	老年人口 (65以上)	11,890	11,974		13,800	14,100	12,900
	計	43,553	40,360	37,370	37,000	35,500	31,400
湯 沢 町	年少人口 (0～14)	1,157	905		656	624	615
	生産年齢 人口(15～ 64)	5,252	4,987		4,082	3,707	2,835
	老年人口 (65以上)	2,232	2,504		3,132	3,240	3,201
	計	8,641	8,396	8,047	7,870	7,571	6,651
合 計	年少人口 (0～14)	16,478	14,456		11,719	11,340	11,113
	生産年齢 人口(15～ 64)	69,218	65,370		55,057	51,054	43,060
	老年人口 (65以上)	29,827	30,554		36,019	36,915	34,389
	合計	115,523	110,380	104,005	102,795	99,309	88,562

資料：各市町人口ビジョン

# 【変更案】

【年齢3区分別人口】（単位：人）

		H17実績 (2005)	H22実績 (2010)	H27実績 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H52 (2040)
南 魚 沼 市	年少人口 (0～14)	9,238	8,349	<u>7,371</u>	6,963	6,816	6,598
	生産年齢 人口 (15～ 64)	38,386	37,199	<u>34,066</u>	31,875	29,847	25,625
	老年人口 (65以上)	15,705	16,076	<u>17,131</u>	19,087	19,575	18,288
	計	63,329	61,624	<u>58,568</u>	57,925	56,238	50,512
魚 沼 市	年少人口 (0～14)	6,083	5,202	<u>4,283</u>	4,100	3,900	3,900
	生産年齢 人口 (15～ 64)	25,580	23,184	<u>20,766</u>	19,100	17,500	14,600
	老年人口 (65以上)	11,890	11,974	<u>12,303</u>	13,800	14,100	12,900
	計	43,553	40,360	<u>37,352</u>	36,900	35,500	31,300
湯 沢 町	年少人口 (0～14)	1,157	905	<u>771</u>	656	624	615
	生産年齢 人口 (15～ 64)	5,252	4,987	<u>4,547</u>	4,082	3,707	2,835
	老年人口 (65以上)	2,232	2,504	<u>2,728</u>	3,132	3,240	3,201
	計	8,641	8,396	<u>8,046</u>	7,870	7,570	6,650
合 計	年少人口 (0～14)	16,478	14,456	<u>12,425</u>	11,719	11,340	11,113
	生産年齢 人口 (15～ 64)	69,218	65,370	<u>59,379</u>	55,057	51,054	43,060
	老年人口 (65以上)	29,827	30,554	<u>32,162</u>	36,019	36,915	34,389
	合計	115,523	110,380	<u>103,966</u>	102,795	99,309	88,562

資料：各市町人口ビジョン

### 3 圏域の将来像

南魚沼市、魚沼市及び湯沢町は、それぞれ古くからの歴史を有し、豊かな自然環境や地域資源を活用した独自の産業や文化を培い、魅力ある地域コミュニティを形成してきました。また、医療や観光など、さまざまな面で密接な関係にあり、一つの生活圏を構成しています。それぞれが共存共栄しながら、持続可能な地域社会を確立していくためには、互いの自主性を重んじつつ、ソフト・ハード面を問わず、幅広い分野において相互に連携する仕組みを充実させ、効果的・効率的なサービスの提供に努めていく必要があります。

今日の社会経済情勢は、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行、就業構造の変化、経済のグローバル化の進展、地球温暖化をはじめとする環境問題などにより大きく変化しています。さらに、核家族化の進展やライフスタイルの変化など、地域住民の価値観が多様化する中、これまで地域を支えてきたコミュニティ機能の低下が懸念されています。今後の地域づくりにおいては、人口減少問題や少子高齢化に対応するため、地域間で連携し、それぞれがもつ資源を相互に補完し合いながら、生活基盤を維持していくことが求められています。

これらの状況を踏まえ、南魚沼市、魚沼市及び湯沢町は、その区域をもって「魚沼地域定住自立圏」を形成し、互いに施策連携することにより、圏域内外の住民が「魚沼地域に住みたい。住み続けたい。」と思えるような取組を推進します。特に、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化の3つの観点から、人口定住のために必要な生活機能を確保し、地域住民の福祉向上と地域振興を図ります。

国立社会保障・人口問題研究所では、2040年における圏域内の人口を2010年の国勢調査人口約11万人より3万1千人少ない約7万9千人と推計しています。社人研の推計に対し、各市町では「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題に対応する施策を進めることにより、約8万8千人（内訳：魚沼市31,300人、南魚沼市50,512人、湯沢町6,650人）の確保を目指すこととしています。

そのためには、若い世代が安心して働き続けられ、出会い、結婚し、子どもを産み育てられる環境づくりを進めることにより、出生数の増加と流出人口の抑制を図るとともに、春夏秋冬の季節を感じながら快適に生活できる環境整備を進め、住民の暮らしやすさを一層向上させることにより、選ばれる地域として新しい人の流れを生みだし、流入人口を増加させる必要があります。魚沼地域定住自立圏では、各市町の人口減少問題に対応する諸施策の推進に加え、それぞれのもつ魅力的な地域資源を活用した施策連携や相互補完、将来に向けた共有資源の創出を具体的に進めることにより、圏域住民の安全安心な暮らしを実現し、2040年に8万8千人を上回る定住人口の確保を目指します。

住民のだれもが幸せで安心して暮らせる魚沼地域定住自立圏を実現するため、圏域の将来像を「かがやく四季のなかで住み続けたい魚沼地域」とします。

将来像

**かがやく四季のなかで住み続けたい魚沼地域**

# 【変更案】

## 3 圏域の将来像

南魚沼市、魚沼市及び湯沢町は、それぞれ古くからの歴史を有し、豊かな自然環境や地域資源を活用した独自の産業や文化を培い、魅力ある地域コミュニティを形成してきました。また、医療や観光など、さまざまな面で密接な関係にあり、一つの生活圏を構成しています。それぞれが共存共栄しながら、持続可能な地域社会を確立していくためには、互いの自主性を重んじつつ、ソフト・ハード面を問わず、幅広い分野において相互に連携する仕組みを充実させ、効果的・効率的なサービスの提供に努めていく必要があります。

今日の社会経済情勢は、人口減少社会の到来、少子高齢化の進行、就業構造の変化、経済のグローバル化の進展、地球温暖化をはじめとする環境問題などにより大きく変化しています。さらに、核家族化の進展やライフスタイルの変化など、地域住民の価値観が多様化する中、これまで地域を支えてきたコミュニティ機能の低下が懸念されています。今後の地域づくりにおいては、人口減少問題や少子高齢化に対応するため、地域間で連携し、それぞれがもつ資源を相互に補完し合いながら、生活基盤を維持していくことが求められています。

これらの状況を踏まえ、南魚沼市、魚沼市及び湯沢町は、その区域をもって「魚沼地域定住自立圏」を形成し、互いに施策連携することにより、圏域内外の住民が「魚沼地域に住みたい。住み続けたい。」と思えるような取組を推進します。特に、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、圏域マネジメント能力の強化の3つの観点から、人口定住のために必要な生活機能を確保し、地域住民の福祉向上と地域振興を図ります。

2013年の国立社会保障・人口問題研究所の発表では、2040年における圏域内の人口を2010年の国勢調査人口約11万人より3万1千人少ない約7万9千人と推計しました。この社人研の推計に対し、各市町では「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少問題に対応する施策を進めることにより、約8万8千人（内訳：魚沼市31,300人、南魚沼市50,512人、湯沢町6,650人）の確保を目指すこととしています。

そのためには、若い世代が安心して働き続けられ、出会い、結婚し、子どもを産み育てられる環境づくりを進めることにより、出生数の増加と流出人口の抑制を図るとともに、春夏秋冬の季節を感じながら快適に生活できる環境整備を進め、住民の暮らしやすさを一層向上させることにより、選ばれる地域として新しい人の流れを生みだし、流入人口を増加させる必要があります。魚沼地域定住自立圏では、各市町の人口減少問題に対応する諸施策の推進に加え、それぞれのもつ魅力的な地域資源を活用した施策連携や相互補完、将来に向けた共有資源の創出を具体的に進めることにより、圏域住民の安全安心な暮らしを実現し、2040年に8万8千人を上回る定住人口の確保を目指します。

住民のだれもが幸せで安心して暮らせる魚沼地域定住自立圏を実現するため、圏域の将来像を「かがやく四季のなかで住み続けたい魚沼地域」とします。

将来像

**かがやく四季のなかで住み続けたい魚沼地域**

